No.２９３４

山の秘湯からブナの自然林が残る双耳峰の頂へ

二　岐　山

実施日　２０１９年６月１日(土)
天　候　晴れ
リーダー　峯川　弘子
参加者　石附智子・遠井謙策・峯川弘子　計3名
費　用　JR往復8,610円(東京駅起算) レンタカー1,700円、入浴 500円
タイム　新白河駅(9:30-10:30🚗)二岐温泉駐車場御鍋神社(11:05~11:23)男岳坂(12:30~13:11)男岳山頂(13:45~14:07)女岳山頂(14:53)女岳坂(15:16)風力発電登山口🚗二岐温泉(15:35-17:30)新白河駅

新白河駅から初めて訪れる羽鳥高原を超えて約小1時間、二岐温泉山麓には4ヶ所ほどの駐車場があるがどこへ停めても男岳女岳を周回するには約2時間の林道歩きが避けられない。

ヤマレコでも林道歩きがネックと。覚悟の上だけどどこへ停めた方がいいか議論しながらとりあえず二岐温泉駐車場へ到着。

明日の山開きイベントに備え人も多いかと思いきや広い駐車場にはこぶし会以外に車が1台。民宿のような宿泊施設が数件ほどの静かな温泉地だ。

登る前の腹ごしらえをしながら車の外にいる男性に山の様子を聞いてみる。近くの「湯小屋」という自炊宿の管理人さんだった。「今から登るの？」と聞かれ「17：00頃下山予定です。」とコースを話すと、山開き前に登山道を整備したこと、女坂からはかなりの急登で御鍋神社からの方がいいよと教えてくれ、さらに林道を車で送ってあげるよと言う。

親切に車を下山口に回し御鍋神社まで乗せて頂いた、この世には神様はいるのだ。

天栄村史跡の神社に立ち寄り登山スタート、笹がきれいに刈られ歩きやすいがなかなかの傾斜で急登が続く、息を切らしながら登り、振り返ると青々としたブナの原生林がとてもきれいだ。

風がなく汗が噴き出す、もうすっかり夏山だ。3人で話が弾み静かな山中にこぶし会の笑い声だけが響いているよう、きっと熊もびっくり？

男坂で一度平坦になるがそこから山頂までがさらなる急登で階段のような傾斜、バテバテのCLは二人に先に行ってもらい後追いでようやく男岳山頂に到着、やったー！そこには緑の東北の山々の風景、なんだかとってもいい～！

ランチで元気回復、次は女岳へ、一旦下ってまたまた急登を20分、重い身体を持ち上げ、着いたぞー女岳！ザックを積み上げ写真を撮りシャクナゲや濃いピンクのツツジが残っている回廊を歩くといよいよ地獄坂

から女坂までの激下り、むき出しの木の根っこが続きずっとロープがつけられているが男坂より歩きにくい、汗をかきながら慎重に下る。

（人間も山も女坂の方がきびしいのか？？）

ようやく歩きやすい傾斜になり20分ほどで駐車場に到着、計画ではここからさらに二岐温泉まで林道を1時間歩かなければならなかったと思うとあまりのありがたさで泣きそうになりました。(笑)

林道歩き2時間短縮できたので「湯小屋」に向かい管理人さんに改めてお礼を言う。ここは二岐温泉でも泉質が一番良いそうだ、河原の混浴露天風呂に入り汗を流す。他にも温泉客が結構来ていた。

湯めぐりに来たという福島県内の女性二人に聞くと、やはりこの「湯小屋」の泉質がいいと言う。

明日の山開きは地元の人が500人くらい登るので管理人さんは駐車場係、みんな男岳女岳を周回し林道を歩いてくるよと聞き、地元の人に愛されている山なんだとほっこりした気持ちになりました。

帰りに管理人さんが漫画の舞台にもなったからと湯小屋の前で写真を撮って頂く。気持ちばかりにガソリン代にとお礼を渡しても凛として受け取っては頂けませんでした。

今の管理人さんは天栄村の出身ではないけれど先代から譲り受け土日だけ営業しているそうです、山小屋のように素泊まり専用、河原に建てられていて広い台所もあり20人ほど泊まれるそうです。

素泊まりで3,500円、泊って明日帰るかと話しながらも帰路に着く。

帰りの道中、羽鳥高原を再度通過、立派な道の駅やホテル、日帰り温泉施設もあるようだ、が、観光客の姿は行きも帰りもほぼ皆無、さらに好奇心旺盛な3人は行きに見つけた「ブリティッシュヒルズ」という英国調のホテル＆ガーデンの広大な観光施設？を車で回って見学、こんな素敵な所なのに観光客はほぼいない、なぜ？「頑張ろう福島」という言葉が胸にぐっと来た。

新白河駅に到着しレンタカー返却後、次回の山行の為の新幹線チケットを購入して駅前のチェーン居酒屋で乾杯。

二岐山のことを聞かれたら女坂からがおすすめって言おうぜとかここでは書けない山とは関係ない話で盛り上がり楽しい時間を過ごしました。

登山のおかげでディスカバリーJapan、日帰りだけどまたまたいい山旅になりました。

※帰宅後、「湯小屋」舞台の漫画を検索すると1968年に「つげ義春」という方が描いた「二岐渓谷」という漫画の舞台でマニアには有名な小屋ということがわかりました。

老朽化で何度も取り壊しの話が出てはいるけれど今も営業を続けているそうです。こんなところで忘年山行できたらおもしろいかも？

（記＆写真・峯川　弘子）

（写真提供・遠井　謙策）